

第1回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和元年7月18日（木）
開 会：13時30分
閉 会：15時15分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第2委員会室
3. 出席委員 石川芳秀 委員（委員長） ・ 清水孝清 委員（副委員長）
若林隆志 委員 ・ 名越圭佑 委員 ・ 水戸美代子 委員
檀上理恵 委員 ・ 箕越美紀子 委員
4. 欠席委員 なし
5. 出席職員
総務部長 加藤 孝
総務部 行政管理課 広報統計係長 麻田英志
環境建設部 環境政策課長 若林健次
環境建設部 環境政策課 環境政策係長 川東正憲
総務部 行政管理課長 加藤武徳
総務部 行政管理課 行政管理係長 下森一克
総務部 行政管理課 行政管理係主任主事 小林裕美
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第1回庄原市行政評価委員会次第

令和元年7月18日（木）13：30から
庄原市役所 5階 第2委員会室

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 総務部長あいさつ

4. 委員長及び副委員長の選出

5. 委員長あいさつ

6. 庄原市の行政評価について 資料1

7. 平成30年度の行政評価結果について 資料2

8. 令和元年度の行政評価について

(1) 第2次評価対象事業の概要説明 資料3

(2) 委員会選定評価事業 資料4

9. 評価対象事業の説明

(1) 庄原市出前トーク 資料5-1, 2, 3, 4

(2) 庄原市飲料水供給施設整備費補助金 資料6-1, 2, 3, 4

10. その他

11. 閉 会

会 議 経 過

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 総務部長あいさつ

皆様方におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、このたびの委員就任を快くお引き受けいただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。

行政評価とは、行政が実施している事務や事業に関し、「住民にとっての効果は何か」、「当初期待したとおりの成果は得られているか」などの視点をもって 評価・検証し、その結果を次年度以降の事業実施に活かしていく手段のひとつでございます。

したがいまして、新たな事業を「する・しない」ではなく、既存事業について「続ける・やめる」又は「見直す」ことについての判断材料となります。

本市におきましては、庄原市まちづくり基本条例におきまして、「施策の成果及び達成度を市民の参画を得て評価し、その結果をわかりやすく公表する。」と規定しております。

このような背景を踏まえまして、平成 26 年度より、この行政評価委員会を設置するとともに、インターネットを活用したプランナーモニターからの市民意見の聴取といった、多角的な視点からの意見を参考とし、事業方針を決定することとしております。

委員の皆様のお力添えをいただき、事業の評価を厳正に実施するとともに、真に必要なサービスを取捨選択し、市民の皆さんの 理解と満足度を高め、「やっぱり庄原がいちばん」と実感していただける行政運営に努めてまいり所存でございます。

どうか、それぞれの視点から忌憚のないご意見、ご提案を賜りますよう、お願い申し上げます。開会のご挨拶といたします。本日はよろしく願いいたします。

4. 委員長・副委員長の選出

指名推薦により、委員長に石川芳秀委員、副委員長に清水孝清委員を選出

5. 委員長あいさつ

不慣れでございますが、皆様のご協力をいただきながら、運営にあたりたいと思います。

我々 7 名は庄原市民の代表という立場で恐らく選ばれたのではないかと思います。この評価の委員でありますので、常に庄原市民の目線と、公平公正な観点から忌憚の無いご意見をいただきながら評価をしていきたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

6. 庄原市の行政評価について

－ 事務局より資料説明 －

7. 平成 30 年度の行政評価結果について

－ 事務局より資料説明 －

8. 令和元年度の行政評価について

(1) 第 2 次評価対象事業の概要説明

－ 事務局より資料説明 －

一次評価：44 事業を選定 二次評価：事務局より 6 事業を選定		
	事務局選定事業	担当課評価
1	出前トーク事業	現行どおり
2	高齢者世帯雪下ろし支援事業補助金	現行どおり
3	歯周病検診事業	拡充して実施
4	グローバル・ドローンイノベーション協議会負担金	現行どおり
5	ふるさと応援団事業	拡充して実施
6	飲料水供給施設整備費補助金	拡充して実施

(2) 委員会選定評価事業

事務局 一次評価対象事業一覧の資料の中から評価委員会の選定事業として、6 事業を次回の委員会で二次評価対象事業として選定いただきたい。

委員長 資料について不明な点については、本日照会いただき、次回までに 6 事業候補を事務局でとりまとめ、次回会議で決定する流れとしたいと思います。

委員 前回は 2～3 事業だったかと思うが、今回 6 事業か。

委員長 今回、選定事業が増えています。事務局 6 事業に、委員選定が 6 事業で、計 12 事業となります。広く、多く市民の方の意見を聞きたいということだと思われます。

委員 6 項目を選定するに当たっての着眼点等、初めての方もおられるので、説明をお願いします。

事務局 総務部・生活福祉部・企画振興部・環境建設部、4 つの部から各 1 つを選定していただければと思います。また、皆さま、それぞれ活躍されておられる場がございますので、そういったところから興味深いものがありましたら、そこから選んでいただくということもあるかと思います。

委員 決算額が 0 円というのが見受けられますが、これは事業が実施されていないということでしょうか。

事務局 例えば、「高齢者世帯雪下ろし支援事業」が 0 円になっております。これは、昨年度、雪が少なかったこともあり、申請がなかったということで、実績が 0 円となっているものでございます。

委員 初めての委員もおられますので、評価シートの見方について説明をお願いします。

事務局 (説明)

委員 ・ 31、33 頁「交通安全推進隊運営補助金」

推進隊員の人数、実績・成果が知りたい。全般にいえることではあるが、実績・成果が無いと、評価ができない。成果が空白ということはありえないので、数字で表記が難しいようであれば、文章でお願いします。

・ 49 頁「地域マネージャー活用事業交付金」

今年度は何名のマネージャーがおられるのか。また、年代が知りたい。定年された方が多いのか、働き盛りの方が多いのか。

・ 61 頁「マツタケ山整備奨励金交付事業」

実績・成果が空白となっている。課題に「達成確認が容易でない」とはあるが、交付金を出している以上は、何らかの成果がないと、評価が難しい。

事務局 整理して、提出させていただきます。

委員 事業の予算額はどこを見ればよいか。

事務局 「事後評価」ということで、決算額を掲載しております。予算額につきましては個別に対応させていただきます。

9. 評価対象事業の説明

(1) 庄原市出前トーク

－ 事務局より評価シート及び資料に基づき説明 －

委員 1. メニュー106項目あり、これは担当課が考えられたのか、それとも市民からの意見を取り入れられて作られたのか。割合とか、経緯を教えてください。
2. 地域的な偏りがあるとのことだが、多いところというのは、積極的な“取り組み”があるのか。
3. 出前トーク実施後にアンケートを実施しているとのことだが、取りまとめたものは、行政にどのように反映されているのか。

事務局 1. メニューの決定方法ですが、毎年年度末に、担当課に見直しをしてもらい、社会ニーズ等を反映し、追加・削除を行っている。また、アンケートには、次はどんな内容が良いかを調査した項目もあり、その結果を担当課にも伝え、反映していくようにしている。
2. H29(回)：庄原 80、西城 11、東城 7、口和 2、高野 1、比和 1、総領 5
H30(回)：庄原 127、西城 2、東城 6、口和 2、高野 2、比和 2、総領 4
PRの仕方に偏りはないが、支所地域が少ないという課題を抱えている。
支所での周知をもっと図っていかねばいけないと考えている。
3. アンケート内容は、必ず担当課に返し、検討していくようにしている。

委員 主催団体は。

事務局 メニューにも関係するが、高齢者を対象にした内容が多い。悪徳商法、健康、食について。そのため、自治会、サロンといった団体が多い。ほかには、自治振興区、

民生委員、社協、J A、介護事業所といったところから定期的に申込みをいただいている。

(2) 庄原市飲料水供給施設整備費補助金

- － 事務局より評価シート及び資料に基づき説明 －
(概要修正：“簡易水道計画区域”は現在ないので削除)

委員 H30年度が3倍程度となっていることの説明は理解できたが、例年10件程度の利用はどういうケースなのか。例えば、新しく家を建て、そこに井戸を掘るとか。

事務局 新規で、給水区域外であれば必然的に制度の対象となる。

さらに、気象状況の関係もあるが、河川の護岸工事で岩を抜くことで、水脈が変わってしまい、井戸が枯れてしまった、今まで水脈が50m下だったのがもっと下がってしまったなどの湧水が大半である。

実は、H28・H29は10件台であるが、H24は40件、H25が37件、H26・H27が25件ということで、例年20件程度あった。たまたま、今回の評価シートは3ヵ年ということで、H30年度は飛びぬけて多く見えるが、例年でいくと20～30件がベースとなっている。10件台が少なかったと見ている。

委員 ボーリング以外は対象にならないのか。

事務局 浅井戸等浄化して利用することも対象とはなるが、飲適検査の合格が必要。

委員 飲適検査、うちは補助制度前の井戸なので対象外だったが、先ほど説明にあったように、水脈が変わることがある。検査代は結構かかる。5年に1回でも、検査に対する補助制度の検討はないか。

事務局 市からは、年に1回の水質検査(11項目)をお願いしている。

実施するかどうかは各自の判断による。

ボーリング時は補助対象だが、以降は通常の維持管理と考えており、検査に対する補助制度はない。

委員 1/2の補助で限度は80万円。最近のボーリング状況は200万以上かかるところが多いと聞いている。この80万が妥当な金額と考えているのか。

事務局 13千～15千円/m掘削。補助対象は掘削と飲適検査等だが、揚水ポンプ・宅内配管等は補助対象外となっている。地層にもよるが100m掘ったら120万～150万かかってしまう。補助上限が80万で、実際には1/3～1/4程度の補助となることは理解しているが、上水道との関係もある。上水道の加入負担金等比較すると20～30年のスパンで考えると、何m³必要かにもよるが、16m³として考えたとき、使用料等含め40万の試算と比較し妥当な金額と考えている。現時点では増額は考えていない。

委員 1. 水道事業計画給水区域は広がるのか。

2. 合併して15年、20件/年で400件程度。今後の見込みについて。要望調査をしているのか。

3. 担当課が考える課題について詳細説明。

事務局

1. 現状維持（水道課確認）

2. 区域外人口は現在約 7,000 人。

20 件/年で推移していたが、今年度は現段階で 14 件申請がある。

ボーリング業者に予約状況の確認をして把握に努めている。

例年 9～10 月頃、渇水による申請が出てくる。

水脈が変わる周期があるのかわからないが、対象世帯で順繰りしている様子。

要望調査はしていない。現時点でのことしか分からない。自然等の影響を受けるものであるため、難しいと考える。

3. 現在、飲適検査が 11 項目であるが、マンガン、フッ素、鉄が出やすい地域がある。検査項目以外の検査に対しての考え方を課題と考えている。

委員

フッ素、鉄が多い場合の撤去装置は補助対象なのか。

事務局

工事費で上限に達してしまう。

委員

以前はもっと補助率が高くなかったか。

事務局

H24 以降は現在の補助率。

委員

水は生命維持に必要であるにもかかわらず、現実の事業費と補助とが乖離していると思う。掘削工事だけでなく、電気工事、浄化装置をつければ、その後の維持管理費もかかる。上水道をひいている方と本当につりあいが取れているのかと思ってしまう。

事務局

水道課において、上水道と井戸での試算をしている。

【上水】44 万円(初期)＋使用料×20 年≒【井戸】掘削工事費（補助金差引）

30 年で上水が上回るようになる計算となる。

限られた予算の中で、できるだけ沢山の方に補助していこうと考えると、上限を上げることは難しい。補助件数を下げざるを得なくなる。

委員

先ほど、どういうケースに補助しているのかと伺った。移住者視点で考えると、空き家を借りて、水が無いので井戸を掘る、といったところがある。I ターン者にとっては余計な経費となる。20～30 年で採算が合う前提となると、30 年そこに居るかわからないような時に、200 万の工事費がかかるよ、補助は 40 万です、となると、大事にされている感は少ない。どういう方を対象にするかということも検討の余地があるのかなと思う。都会から来る方は、上下水道があるのは当たり前が多い。ニーズを全て満たさなくてはいけないとは思わないが、若い人に残ってほしい、外から来てほしいといった施策を考えておられる中で、「水」が心配である、思った以上の経費がかかるというのは、ハードルが高いかと思う。

事務局

おっしゃられることはよく分かる。これについては、定住促進の担当課と話はさせていただきたいと思う。

委員

上水道にかかる経費と井戸にかかる経費との資料があればほしい。

事務局

次回までに資料を提出する。

7. その他

委員 それでは、各自、次回までに候補事業の検討をお願いします。

事務局 (次回会議までの資料提出及び、会議内容の説明)

第5回行政評価委員会(8月29日(木))の時間変更(開始時間13:30→15:00)について了承。

8. 閉会